

都立村山特別支援学校（1年目）

【校長】 佐々木 孝之
【生徒数】 115名
【学級数】 40学級



次の取組へ

【課題・改善】

- (1)一人1台端末を活用した授業内容の推進
 - ・重度重複障害を有する児童・生徒への活用方法
- (2)多様な運動機会の設定の推進
 - ・ダンス以外の柱となる運動の取り組み
- (3)健康教育の推進
 - ・重度重複障害を有する児童・生徒へのアプローチ
- (4)外部専門員を活用した活動の推進
 - ・教職員への身体支援方法等講習会の設定
- (5)校種間の交流の推進（発表会含む）
 - ・今年度並みの対応の継続

【実態・課題】

- ・重度重複障害を有する児童・生徒が多く在籍している。運動やスポーツを行う際に、障害等により活動制限がある者が多い。
 - ・外部のイベント等に参加が難しい。
 - ・車いすを使用している児童・生徒が多く、身体を大きく動かすことが難しい。
- ⇒児童・生徒が運動への興味・関心を高めるための活動機会の創出
⇒児童・生徒の身体的可動範囲を高めるための運動機会の創出

目標

- ・ダンスを通して運動への興味・関心をもっている生徒 80%
- ・ダンスでの交流や発表を通して意欲の向上が見られた生徒 50%

【成果】

- (1)授業（体育・ダンス）での取組
 - ・一人1台端末を活用したことで、児童・生徒の授業への理解度や意欲の向上が見られた。
 - ・外部専門員を招致し指導・助言を取り入れ教職員の児童・生徒への指導・身体支援への理解と技能向上を図ることができた。
 - ・ダンス練習を継続したことで、児童・生徒の筋肉・関節などの持久力・柔軟性・強度の向上を図ることができた。
 - ・Tシャツデザインを全校で募集・選考し、Tシャツを作成することで、児童・生徒一人一人のダンスに取り組む意欲向上につながった。
- (2)校種間の交流への取組
 - ・他校との交流会や全校での発表会を設定・実施したことで、目標ができ、活動への主体的な取り組みに繋がった。
- (3)取り組みを通しての成果
 - ・ダンスを通して運動に興味・関心をもった児童・生徒数 86% (94/109名)
 - ・交流や発表を通して意欲向上が見られた児童・生徒数 62% (68/109名)

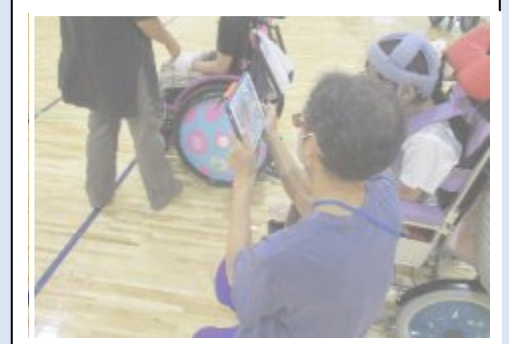
【取組】

- (1)授業（体育・ダンス）での取組
 - ・一人1台端末を活用し、活動内容を撮影し振り返り学習を行う。また、見本動画を保存して置き、個人で練習できる環境にする。
 - ・外部専門員を招致しフラダンス・チアダンスの指導、教職員の児童・生徒への身体支援の指導を実施する。
 - ・継続した練習環境を設定し、筋肉・関節などの持久力・柔軟性・強度の向上を図る。
 - ・Tシャツデザインを全校で募集・選考し、Tシャツの作成を行う。
- (2)校種間の交流への取組
 - ・他校とのダンス交流会、ダンスフェスティバル（全校発表）を実施する。（オンライン交流含む）

【取組（詳細）】

○授業（体育・ダンス）での取組

- ・一人1台端末で自分のダンスを撮影し振り返り学習を行った。
- ・タブレット端末にダンス講師の動画を入れておき、児童・生徒がいつでも確認できるように工夫した。
- ・体育の準備体操で発表用のダンスを取り入れ、継続的に練習できるようにした。



一人1台端末を使用したダンス練習

○外部専門員の取り組み

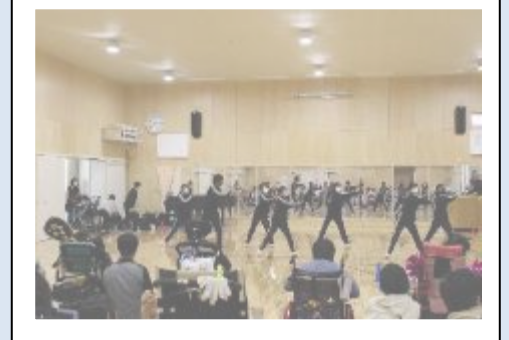


ダンス講師による指導

- ・フラダンス及びチアダンスの講師を招致し、年間32回（フラダンス24回、チアダンス8回）の講習会を実施した。
- ・1月のダンスフェスティバル（校内発表会）に向け〈自立活動を主とする教育課程〉〈知的障害を併せ有する児童・生徒の教育課程〉〈準ずる教育課程〉それぞれに該当する児童・生徒が目標に向かい練習に取り組んだ。

○校種間の交流の取り組み

- ・都立福生高等学校ダンス部との交流を行い、お互いのダンスを披露した。
- ・発表の場という体験やより洗練されたダンス（動き）を見ることで、運動への興味・関心の向上心の育成が期待できた。
- ・ダンス（運動）を通じて他者と関わる楽しさを体験することができた。



都立高等学校とのダンス交流会

○発表機会の取り組み



ダンスフェスティバルの開催

- ・年間で取り組んできたダンス講習会及び練習の成果を発表する機会として「ダンスフェスティバル」を設定し実施した。
- ・外部専門員の他、外部講師によるダンス公演を鑑賞した。
- ・課題曲（選択）として練習してきた「にじ」「みんながみんな英雄」「ベテルギウス」「つばめ」「ダンスホール」を小学部、中学部、高等部の児童・生徒が楽しみながら一生懸命発表を行った。